

機関番号：24506

研究種目：基盤研究(c)

研究期間：2008～2010

課題番号：20520026

研究課題名(和文) 生命の哲学の構築—古代ギリシアと V. v. ヴァイツゼカーの哲学的生命論の再検討

研究課題名(英文) Constructing a Philosophy of Life. Rethinking Philosophical Theory of Life of Ancient Greek Thinkers and V. v. Weizsäcker

研究代表者

丸橋 裕 (MARUHASHI YUTAKA)

兵庫県立大学・看護学部・教授

研究者番号：10202334

研究成果の概要(和文)：プラトン哲学をその頂点とする古代ギリシアの哲学的生命論と、現代の医学的人間学の提唱者である V. v. ヴァイツゼカーのそれとの共通点は、自然学的な思考システムに対して根本的な反省を迫り、自然と人間を包括する普遍的な人間学を根底に据えるところにある。この人間学の発想を導きとして、現代の生命科学や医療の現場に生起しつつあるさまざまな問題を解明するための不動の論拠として、新たな生命の哲学の構築を試みた。

研究成果の概要(英文)：We can see one of common features between the philosophical theories of life of ancient Greek thinkers, the peak of which was Platonic philosophy, and that of Viktor von Weizsäcker at the following point: they pressed for fundamental reflection to the physical thinking system and set universal humanics including nature and human beings on the bottom. Making the way of thinking of this humanics guidance, I tried construction of a new philosophy of life as immovable basis for solving various problems which are occurring in present-day spots of life science and medicine.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・倫理学

キーワード：西洋哲学、生命論

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 生命科学や医療の現場からの要求によって成立した生命倫理が限界に直面し、「内なる自然」としての人間の生命のあり方がより原理的・総合的な仕方でも問われるべき必要に迫られていた。

(2) 現代の最も注目すべき医学的人間学の提唱者 V. v. ヴァイツゼカーによって精緻に展開された生命の思惟とその古代哲学との親近性やその意義について、まったく知られて

いなかった。

## 2. 研究の目的

(1) 現代の生命科学や医療の現場に突きつけられている多様な倫理的・政治的問題を「生命そのもの」の根源的なあり方が問われる場に立ち返って考え直す。

(2) そのために、西洋古代における哲学的生命論を文献学的に再検討し、さらに V. v. ヴァイツゼカーによる生命の思惟を媒介とす

ることによって、いわゆる生命倫理を超えた全一的な生命の哲学の構築を目指す。

### 3. 研究の方法

(1) プラトンを中心とする古代ギリシアの哲学的生命論を包括的に再検討するとともに、ワグナー、ニーチェの基本思想を生命論の視点から読み解く。

(2) V. v. ヴァイツゼカーの生命の思惟をより深く理解するため、研究会を主宰し、国際学会に参加すると共に、主著を翻訳出版する。

(3) 生命倫理に関連するアクチュアルな議論を批判的に分析する。

(4) 以上の個別的な諸目的達成のため、専門的な文献資料を収集し、主要なテキストを緻密に分析し、諸家の解釈を批判的に検討し、研究会等に積極的に参加し、その成果を発表する。

### 4. 研究成果

(1) 「生命の自然治癒力」をテーマに学会発表を試み、初期ギリシアと V. v. ヴァイツゼカーの哲学的生命論を包括的に展望する視点を確立した。「ピュシス」と「エス」の概念がその鍵であったが、ヴァイツゼカーにおける「自我」の形成と「エス」の形成が自然／自己治癒を可能にする重要な契機なのである。

(2) プルタルコスのデルポイ関連著作を中心とする宗教思想を古典ギリシアの哲学的生命論との関連において総合的に理解することを試み、その成果の一端を『西洋古典叢書 プルタルコス モラリア 5』に成就させた。プルタルコスの神学は、プラトンの〈善〉原因を人間的生にいかにも実現させるかという生命論的視点をもって読み直されるべきである。

(3) ワグナーの総合芸術の理念とニーチェの生の哲学の共通基盤が古代ギリシアの哲学的生命論にあることを究明し、その成果の一端を論文「ニーチェとギリシア」において明らかにした。「死に臨むソクラテス」を範とすることによって、プラトンもニーチェも、かりそめの世にありながらより善く、より美しく、より純粋に生きることを共通の目的としていた。

(4) 古代ギリシアの哲学的生命論を包括的に再検討するために、ペリパトス派とヒポクラテス学派の医学思想を中心に文献調査を進めつつある。その成果の一端はアリストテレス『問題集』の翻訳註解のかたちで公表する予定である。

(5) V. v. ヴァイツゼカーの生命の思惟をより深く理解するために、『自然と精神』『出会いと決断』の翻訳註解作業を進めると共に、「医学的人間学」に関連する諸論文を厳密に調査しつつある。その成果は、今秋の医学哲

学倫理学会において発表し、雑誌論文、翻訳図書のかたちで公表する予定である。

(6) プラトン後期の哲学的生命論を彼の政治哲学の文脈のなかで捉え直し、V. v. ヴァイツゼカーの医学的人間学との共通点を探りつつある。それは、「自然学」の思考システムに根本的な反省を迫り、普遍的な人間学をその根底に置く点にある。その成果の一端を今秋のギリシア哲学セミナーで発表し、雑誌論文のかたちで公表する予定である。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計1件)

丸橋 裕「生命の自然治癒力」第27回 日本医学哲学・倫理学会, 生命倫理コロキウム, 2008, 10月 (北海道大学)

[図書] (計2件)

丸橋 裕『西洋古典叢書 プルタルコス モラリア 5』京都大学学術出版会, 385頁, 2009, 3月

丸橋 裕『西洋哲学史』第1巻、分担: 「5 ニーチェとギリシア」講談社メチエ (入稿済み)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]

ホームページ等

### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

丸橋 裕 (MARUHASHI YUTAKA)  
兵庫県立大学・看護学部・教授  
研究者番号: 10202334

(2) 研究分担者

( )  
研究者番号:

(3) 連携研究者

( )  
研究者番号: